

会 議 等 結 果 報 告 書

令和7年6月26日

1. 会議名 ながさき環境県民会議4R部会（令和7年度第1回）

2. 日 時 令和7年6月2日（月）14：00～15：30

3. 場 所 長崎県庁行政棟3階 313会議室

4. 出席者 別添名簿のとおり

5. 内 容

（1）開会 山内課長あいさつ・中道部会長あいさつ

（当日、巴山氏から中道氏へ部会長を交代し、巴山氏は副部会長へ就任）

（2）議事（⇒「結果」）

①ながさき環境県民会議について（体制図・設置要綱等）⇒「事務局説明、特に意見なし」

②「ゴミゼロながさき実践計画」令和6年度活動実績・令和7年度実施計画について
⇒「特に意見なし（承認）」

③生ごみひと絞り事業など、ごみ減量化の取組について

⇒「生ごみひと絞り事業及び紙類の減量化を新たな県民運動として取り組む旨、4R部会として県民会議総会で提案する（承認）」

④「ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション12」の今後の取組について
⇒「特に意見なし（承認）」

⑤今後のスケジュール等 ⇒「総会及び表彰式 8/22（金）決定（承認）」

6. 主な協議内容及びご意見 ○委員 ●事務局

【②「ゴミゼロながさき実践計画」令和6年度活動実績・令和7年度実施計画】

○長崎県の一般廃棄物再生利用率は？（部会長：中道委員）

⇒ ●事務局回答：令和5年度の数値が最新となる。長崎県は15.8%。

【③生ごみひと絞り事業など、ごみの減量化の取組について】

～紙の減量化～

○資料5-④：令和7年度からの新たな県民運動にある「紙の減量化」というのは具体的にどのような取組になるのか。（長崎県商工会女性部連合会：榊原委員）

⇒●事務局回答：長与町や時津町のように、既に家庭から出る古紙・雑紙回収が浸透している自治体もあるが、県民全体ではまだ浸透されていない。例えば、お菓子の箱やトイレットペーパーの芯など、燃やせるゴミと一緒に入れている県民の方が多いと考えている。それらを燃やせるゴミに入れるのではなく、自治体の資源ごみ回収に回したいと考えている。

具体的には、焼却ゴミ 44 % の内、紙類は 26 %。新聞紙や古紙に限らず、お菓子の箱を雑紙と言っているが、新聞紙等に差し込んで回収に出すなど考えている。

⇒○長崎県商工会女性部連合会 榊原委員：お菓子の箱は、これまで燃やせるゴミの中に、割いてなるべく細かくして出していたが、古紙の方に出すという意識はなかった。改めたい。

～（市町の取組）紙類の減量化について～

○佐々町はリサイクルごみが細分化している。ダンボール、新聞、チラシ類、その他の紙類など。お中元やお歳暮の箱、書き損じはがき、本・雑誌もその他の紙に捨てていい。佐々町のクリーンセンターでは、紙の分別の仕方が 1 枚紙でまとめられている。1 人暮らしの場合、あまりごみが出ないが、先ほどの松本さんの発表は素晴らしい。生ごみは絞ってコンポストに入れたり、畑に植えて堆肥にしている。1 人 1 人がやっていかなければ、生ごみの減量化進まない。自分にできることを始めたい。（一財長崎県地域婦人団体連絡協議会：管理事）

○弊社は、事業者が出す紙類を回収して自治体に出すという業務を行っている。時津や長与は、事業者もゴミの中に紙を入れないというのが当たり前。長崎市、諫早市、大村市、雲仙市などでは、燃やすごみの中に紙が入っている。令和 7 年度から、紙類の減量化を新しく県民運動として進めるのであれば、市町の連携が必要になってくる。市町が燃やすごみの中に紙を入れないでくださいという通知があって、そこから市民の皆さんの意識が変わる。街中にストックハウスがある所もあれば、回収の仕方は市町によって異なる。自治体と連携し古紙回収できる事業者もあると思うので、それらを活用すればよいと思う。事務局として、市町との連携がとれるのか、今後その方向性があるのかお聞きしたい（長崎県クリーン事業協同組合：菅原理事）

⇒●事務局回答：市町の連携は、課題と考えている。生ごみひと絞り事業を例に市町が参加する廃棄物対策連絡協議会（4 月開催）の場で五島市、佐々町の取組を紹介し、ながさき環境県民会議 4 R 部会でも今年 5 月に生ごみひと絞り事業を展開することを説明した。その後、市町に実施希望調査を行い、想定より多く 6 市町から実施希望の回答があった。紙類の減量化も、このような流れを汲んでいけば、手を挙げてくれる市町が出てくるのではないかと希望として考えている。

⇒○長崎県クリーン事業協同組合 菅原理事：

前向きに考えてくれる自治体があると思う。弊社は、月 1 回長崎市内のある事業者へ回収しに行くが、カタログや紙類だけを 2 千キロ一度に出す。これを積んで焼却場に持っていく。全て紙なのに、リサイクルすべきだと感じる。長崎市として、これらを受け入れていくということを止めるべきだと思う。市町が減らすにはどうしたらいいか考えた上で、長与や時津に倣って、紙を燃やすのを止めるにはどうしたらいいか、市町を巻き込んで進めていく。民間の声ではなかなか行政は変わらないので、その辺りは県に音頭を取ってもらいたいと考えている。

⇒○中道部会長：

今おっしゃったことは非常に重要なこと。個人ベースで頑張っている方が沢山いらっしゃる。こういうことしたら注目される、自分たちはこんなことをやっている等、表彰ではないけれども、アピールしていくこと、見える化していくことも大切だと思う。

～（分別方法等）紙類の減量化について～

○諫早市に住んでおり、ストックハウスに紙類を持っていくことがあるのだが、全面に印刷された（例えばビールの箱）は持ってくるなど書いてある。業者によって違うのか、地域毎によって違うのか。（中道部会長）

⇒○長崎県クリーン事業者 菅原理事：

ストックハウスで回収する紙類は、基本的に入札で決まる。ダンボール、新聞、雑誌の３種類。菓子箱とかその他の雑紙とかは、雑紙として回収している。ビールの箱は、金箔が入っているものが多く、こういったものは、禁忌品と呼ばれる紙で、リサイクルに適さない。ビールの箱全てがだめとは限らない。例えば、お線香の香りがするとか、習字の墨がついた半紙などがリサイクルに適さない。リサイクルの際、１つのロットは千キロくらいの塊になるが、こういった物が入ってしまうと、１つのロットが全部無駄になってしまうから、嫌がられる。感熱紙など、見た目は紙であってもリサイクルに適さないものがある。禁忌品については、一般の方にはなかなか分かりづらいことなので、同時進行で啓発も必要ではないかと思う。

⇒○一財長崎県地域婦人団体連絡協議会 管理事：

古紙回収については、佐々町の地域婦人会でも２０数年程行っていた。もう終わって７，８年ほど経つが、業者の古紙がだぶついており、婦人会の古紙は回収できないということで終わった。しかし、回収業者から古紙回収分の売り上げももらえるし、その月に集めた数量を役場に持っていくと、役場からも回収利益をもらい、財源にしていた。その時、回収業者から、イリコが入っていた大きな段ボールは、イリコの臭いがするので回収できないと断られたことがある。

⇒○中道部会長：

このあたりの啓蒙活動も一緒にやっていくといい。何でもかんでもリサイクルというのは、受け手側も大変ということが良く分かった。このあたりも一緒にアナウンスしていくと効果的だと感じる。

⇒○松本委員：

今、消費者や一般市民の立場で話が進んでいるが、事業者の立場でも、廃棄まで考えた物づくり（デザインや計画）を考えていく必要があると思う。先ほどの金箔という話もあったが、そういうことをしなくても素敵なデザインを作ることにはできる。川下だけでいくら頑張っても、川上の部分も頑張ってもらわないとなかなか成果を出すのは難しい。私の母は、レシートの紙ももったいないと言って古紙に出してしまう（リサイクルに適さない紙ということを知らない）。購入の段階で、レシートを発行する段階で、これは古紙に出せませんよという

ことを少しアナウンスすればより広まっていくと思う。

⇒○中道部会長：

なかなか、そういった所に我々の声を届けるのは難しいと思うが、それを発信し続けることは重要だと思う。もしくは、消費者が、そういったものはゴミに出すのは面倒くさいから、その商品を買わないという選択肢があっても良いと思う。

【追加資料Ⅰ】（長崎県クリーン事業者様提供）古紙リサイクル分別一覧

～（事業系）紙類の減量化について～

○事業系の紙類の減量化について、何か意見や事務局からの説明はないか。（中道部会長）

⇒●事務局説明：

事業系も従来にわたり、減量化を進めていきたいと考えている。

⇒○長崎県クリーン事業協同組合 菅原理事：

事業系の紙類の中で、よくあるのが機密文書（個人データ）の処分。長与や時津以外の市町は焼却処分しているが、最近認知度が上がり、機密文書进行处理したという証明を事業者が求め、機密データの処理を担保しながら、リサイクルする業者も県内に数社ある。そのような業者と連携し、機密文書もリサイクルしていくことを視野に入れていくと、減量化を進めることができるのではないかな。今までの生活は、いわゆるリニアエコノミーというものだったが、最近はサーキュラーエコノミーという、作った後も循環させていくという経済の流れに変わっている。本日の資料には、この言葉が入っていなかったもので、こういった情報も県民の皆さんにも認知していくことも一つの手法だと思う。

～生ごみひと絞り事業について～

○生ごみに関して、普段料理をする際、1人の場合、買う時点から野菜の量が多い。ほうれん草など一袋は多いが、半分だけのパック等、使い切れる前提の商品が広まってくると良い。事業者として、そもそも量が少ないものを展開していく、県としてもそれを応援していくという取組があると一個人としてはすごく有難い。（巴山副部会長）

⇒●事務局回答：

食ロスの話に繋がっていくと思うが、Refuse の点で買いすぎない、作りすぎないという中で、県では九州各県で九州食べきり協力店という取組を行っている。通常のサイズとは別に、小盛、ハーフの量のメニューを提供するなどのお店を登録している。馴染みはないかもしれないが、そういった所を増やしていけたらと考えている。

○今年度、生ごみひと絞り事業を希望している自治体は？（中道部会長）

⇒●事務局回答：佐世保市、松浦市、対馬市、雲仙市、東彼杵町、新上五島町となる。

※6/23時点、上記に川棚町も加えた計7市町で実施予定。

～生ごみひと絞り事業の効果的な啓発手段について～

○長崎県が出している食ロスカレンダーがあり、こういったカレンダーにはよく、ポスターコンテストに応募した子どもたちの絵が掲載されているが、このような啓発物に、ティーパックを1回ひと絞りすると、5gの水分を減らせるなど一言メモを添えれば効果的だと思う。また、先ほど、野菜等の食材の小売りについてご意見があったが、老若男女誰でもできる食材ストックの作り方など、おしゃれにかっこよく掲載されていれば、何らかの役に立つと思う。(松本委員)

⇒●事務局回答：

そのカレンダーは、当課で作成している。役に立つ一言メモをつけるというアイデアは参考になるため、検討させていただきたい。ポスターコンテンツは、小学生の時から食べ物を残さず食べるのは大事ということを啓発するために実施している。

～その他（バイオディーゼルについて）～

○弊社の取組として、家庭系のごみの中で、使用済みの天ぷら油をバイオディーゼルや重油などに生成する事業をしている。一般家庭でも天ぷら油の捨て方は多様だが、一番良くない捨て方は、下水に流すこと。先ほど、松本さんの資料説明の際、排水もゴミという話があったが、そういった観点からも天ぷら油を回収する仕組みづくりがあっても良いかなと思う。(長崎県クリーン事業協同組合：菅原理事)

○婦人団体連絡協議会は12地区あるが、その半分くらいで廃油石けんを作っていた。小学校、中学校の給食で使った廃油を減量にしている。昨年、県庁に廃油石けんで作った鏡餅を展示させてもらった。1月10日に廃油石けんの鏡餅の鏡開きをして、来庁者に配布し、喜んで頂けた。学校の保護者から靴下の汚れが良く落ちると好評。婦人団体連絡協議会の財源にもなっている。(一財長崎県地域婦人団体連絡協議会 管理事)

○水に流すのは、もってのほか。廃油を下水に流すことがないように取り組んでいくことを県民の方に啓発していくことも大事。廃油は今だと航空燃料(SAF)になる。(中道部会長)

【④「ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション12」の今後の取組み】

～エコふぁみについて～

○エコふぁみのアプリのくじは、大波止にある事務局でくじをひくのか。今、どれくらいの登録者数か(中道部会長)

⇒●事務局回答：アプリ上でくじをひける。4万人の登録を目標にしているが、現状は5千人。

○エコふぁみについて、昨年から毎日使っている。電気、ガス、水道代を入力しているが、毎月自分で見ながら、光熱費が高かった時などの参考にしている。個人が入力した情報の集約はし

ているのか？（一財長崎県地域婦人団体連絡協議会 管理事）

⇒●事務局回答：

事務局で集計はしていない。個人で毎月の光熱費がどれくらいかを登録し、以前と比較することにより光熱費削減のためのデータとして利用できる。

～「長崎県 デコ活」Instagram～

●「長崎県 デコ活」のInstagramを開設した件について、6月（環境月間）と10月（4R推進月間、食品ロス削減月間）にSNS上で広告を出す予定。また4R部会の皆さまの事業者様、団体様のアカウントで、是非フォローをしていただきたい。こちらのアカウントでも、団体様のアカウントをフォローするので、相互フォローさせていただければと思う。今後、ながさき環境県民会議に関する情報発信の際に、タグ付けするなど連携ができる（事務局）

⇒○中道部会長質問：

フォローする団体側のアカウントは公式でなくても大丈夫か。公式がどうかは、どうやって判断するのか。

⇒●事務局回答：

公式でなくても良い。こちらのアカウントも公式ではない。

※会議後、長崎総合科学大学と長崎県クリーン事業者にフォローして頂いた。

Facebookも開設した為、QRコードの情報を追加で送付する。

【追加資料2】：「長崎県 デコ活」Instagram 及び Facebook の QR コード